

## 島根県松江市方言の待遇表現

山根 智恵

### I. はじめに

- (1) 調査対象地：松江市は、東西に長い島根県の東部に位置し、西は宍道湖、東は中海に面している。島根県の県庁所在地でもあり、また国際観光都市としても名高い城下町である。総面積は、190.30平方キロメートル、人口は146,416人（男70,425人、女75,991人）、世帯数は55,239世帯（人口、世帯数とも平成9年1月31日現在）で、過疎化が進む島根県の中では、年々人口が増加している数少ない都市である。

市は大橋川をはさんで北側と南側に分かれる。北側の松江城、武家屋敷周辺は、古くから栄えたところであるとともに、現在も県庁、市役所が建つ市の中心である。南側にはJRの松江駅があり、電車やバスなど交通の拠点となっている。出雲国分寺跡、八重垣神社のような、古代出雲文化の史跡や古い神社が残っているのは、おもに南側である。また、人口の微増に伴って、旧市街周辺の耕地は、住宅地に変わりつつある。

なお、松江市での言語調査としては、国立国語研究所刊行の『待遇表現の実態－松江24時間調査資料から－』がある。松江市は、典型的な雲伯方言の地域であるが、若い人たち、特に市の中心部にある学校に通う生徒たちからは、方言使用が減る傾向にある。調査者の郷里でもある。

- (2) 調査年月日：1997年1月6日

- (3) 話者：山下三千子氏、1924年生（72歳） 主婦

話者は、飯石郡の三刀屋町（出雲市の東に位置する）で生まれ、そこで11歳まで過ごした。また、18歳から19歳までは、広島県との県境にある飯石郡吉田村（出雲市の南に位置する）で青年学校の教師を、19歳から1年程は、三刀屋町の隣村、鍋山村の国民学校の訓導をしていた。それ以外は松江市で暮らし、島根県以外に住んだことはない。松江市では、新雑賀町、北堀町、殿町、田町などに居を構え、現在は西津田町に住んでいる。それらは、いずれも松江市の中心部に位置する。

なお、山下三千子氏は、調査者の伯母にあたる。

- (4) 調査者・調査場所：山下氏宅（調査者の自宅でもある）で、山根が面接をおこなった。

- (5) 調査方法：当該調査票による質問調査。調査者も内省が可能なので、山下氏の回答で疑問に思うところなどは質問、補足を加えながら調査をおこなった。

- (6) 表記方法：回答は片仮名で表し、アクセントは高く発音された部分に線を引いて記す。発話末の助詞がさらに高くなる時は、→で記す。話者の注は、回答のあとに（ ）に入れて記す。調査者の注は、\*印のあとに記す。

## II. 調査結果

### 1. 尊敬表現

#### 1-1 対者敬語

(1) A お前は アンタ

元気かね ゲンキダッタ

B あなたは アナタ

元気かね オゲンキデシタカ

C あなたは

元気かね マー オヒサシブリデスケドモ オゲンキデ ゴザイマシタカ

\*会話では、しばしば2人称の「あなた」は省略されるので、話者も「C」の場合に「あなた」を省略したものと思われる。

(2) A あしたは家に居るか アシタ イエニ オーチーカヤ

B あしたは家に居るか アシタ ウチニ イラッシュアイマスガ

C あしたは家に居られますか アシタ ウチニ イラッシュアイマスガ

(「B」にも「C」にも敬語を使うので、方言はなくなる。言い方は同じ。)

(3) A あした行くか アシタ イキナーカヤ \*「キ」の母音は [i] に近い。

B あした行きますか アシタウ イカレマスガ

C あした行きますか アシタウ ユカレマスガ

(4) A 温泉に行かないか オンセン イカヤネ

B 温泉に行かれませんか オンセンニ ユキマショヤー

C 温泉に行かれませんか オンセンニ ユカレマセンガ

(5) A あしたどんな仕事をしますか アシタウ ドゲナ シゴト シナサイマスガ

B あしたどんな仕事をされますか アシタウ ドンナ シゴトオ シナサイマスガ / アシタウ ドンナ シゴトオ ナサイマスガ \*「シゴトオ」の「オ」は、省略される場合もある。

(6) A 見ましたか ミナサイマシタカ

B 見ましたか ミナサイマシタカ

(7) A ゆうべは何時に寝ましたか ユーベウ チンジニ オヤスミニ ナリマシタ / ユーベウ チンジニ ネナサイマシタカ

B ゆうべは何時に寝ましたか ユーベウ チンジニ オヤスミニ ナリマシタ

C そのベッドに寝てください ベッドノ ウエニ ネーダワネ

(8) A どこに行っているか イマカラ ドコ イクネ / イマカラ ドコニ イクネ

B どこに行っていますか ドコエ イカレマスガ

C どこに行っていますか ドコエ オデカケニ ナリマスガ

(9) A どうぞ食べてくれ アンタ コレ タベーダワネ

- B どうぞ食べてください 下ーゾ タベナサイマセ  
 C どうぞ食べてください 下ーゾ メシアガッテ クダサイマセ
- (10) A その写真を私に見せてくれないか アンタ ソフ シャシン ミセテ  
 B その写真を私に見せてくださいますか アンタ ソフ シャシンオ ミセテ  
 クダサイマセンカ  
 C その写真を私に見せてくださいますか アンタ ソフ シャシンオ ミセテ  
 イタダケマセンカ

1-2 第三者敬語

- (11) A あしたは家に居るだろう アシタワ イエニ オーナーワネ  
 B あしたは家に居るだろう アシタワ イエニ オーナハーデショー  
 C あしたは家におられるでしょう アシタワ イエニ オイデーワネ
- (12) A 居なかった ルスダッタワ  
 B 居なかった オーナラダッタヨ  
 C 居なかった イエニ オイデマセダッタワ \*「セ」の音は「シェ」[sje]に  
 近い。
- (13) A そう言った ソー ハナシトラレタヨ  
 B そう言った ソー ハナシテ オーナハッタヨ
- (14) A 今ここに行っていた イマ ソコニ イットッタヨ  
 B 今ここに行っておられた イマ ソコニ イットラレタヨ  
 C 今ここに行っておられた イマ ソコニ イッテ オイデタヨ
- (15) A 友達が来ている アーサンガ キチョーナーヨ  
 B 来ている キトナーハーヨ  
 C 来ている キテ オイデーヨ
- (16) A 仕事をしている シゴト シチョーナハーヨ  
 B 仕事をしている シゴト シトナーハーヨ
- (17) A 見せてもらった ミセテ モラッタヨ \*「セ」の音は「シェ」[sje]に  
 近い。  
 B 見せてもらった ミセテ モラッタヨ  
 C 見せてもらった ミセテ モライマシタ \*「セ」の音は「シェ」[sje]に  
 近い。
- (18) A 見せてくれた ミセテ モラッタヨ  
 B 見せてくれた ミセテ ゴシナハッタヨ  
 C 見せてくれた ミセテ クダサッタヨ
- (19) A 私にくださった イー モノオ モライマシタヨ  
 B 私にくださった イー モノオ モライマシタヨ

- (20) A いただいた モラッタヨ  
 B いただいた イタダイタヨ

## 2. 謙譲表現

### 2-1 謙譲表現

- (21) A 私も ワタシモ \*「シ」の母音は [i] に近い。  
 B 私も ワタシモ \*「シ」の母音は [i] に近い。  
 C 私も ワタシモ \*「シ」の母音は [ɨ] に近い。
- (22) A 十分に食べました モ ゴチソーサンデス  
 B 十分に食べました モー ジューブン イタダキマシタ
- (23) A 持ちましょう モチマショーカ  
 B 持ちましょう オモチ イタシマショーカ \*疑問文の形で回答があった。友人に言う場合を聞いたところ、疑問文にならず、「モッテ アゲーワ」という回答が得られた。
- (24) A 待たせたね マタセテ ゴメンヨ \*「セ」の音は「シェ」 [sje] に近い。  
 B お待たせしました スミマセンネ オマタセシテ  
 C お待たせしました マ タイヘン オマタセイタシマシテ スミマセン
- (25) A 駅で待っているよ エキデ マッチョー/エキデ マッチョーケンネ  
 B 駅で待っていますよ エキデ マッテ オリマスケン/エキデ オマチシテ  
 オリマスケンネ  
 C 駅で待っていますよ エキデ オマチシテ オリマス
- (26) A 言ってくれ イッテ ゴシナハイ/イッテ ゴシナハイネ \*「シ」の母音は [i] に近い。  
 すぐ帰るから待っててもらってください スグ カエーケン マッチョッテ  
 マッテ  
 B 言ってくれ イッテ クダサイ  
 すぐ帰るから待っててもらってください スグ カエリマスケン マットッ  
 テ モラッテ クダサイ  
 C 言ってくれ イッテ ゴシナハイネ \*「シ」の母音は [i] に近い。  
 すぐ帰るから待っててもらってください スグ カエリマスケン マットッ  
 テ モラッテ ゴシナイネ \*A、B、Cとも「言ってくれ」だけではなく、  
 「待っててもらってください」の回答も得られたので、記しておく。
- (27) A これをやろう コレ アゲーワ  
 B これをあげましょう コレオ アゲマショー  
 C これをあげましょう コレオ サシアゲマス

2-2 身内敬語

- (28) A 買ってやった カッテ ヤッタヨ  
B 買ってやった カッテ ヤリマシタ  
C 買ってやった カッテ ヤリマシタ
- (29) A 主人はもう帰っています モー カエッテ オリマス  
B 主人はもう帰っています モー カエッテ オリマス (「主人」は、省略する。)

3. 丁寧表現

- (30) A 行くよ イクヨ  
B 行きます ユキマス
- (31) A 今日(今日は)は寒いね アンタ キョーワ サムネ  
B 今日(今日は)は寒いね キョーワ サム ゴザイマスネ  
C 今日(今日は)は寒いですね オサムイ ヒデ ゴザイマスネ
- (32) A 居るよ オーヨ  
B 居ます オリマス
- (33) A よかったねえ ヨカッタネー  
B よかったですねえ ヨー ゴザイマシタネー  
C よかったですねえ ヨロシュー ゴザイマシタネー
- (34) A そうか ソダカ/ソダカネ  
B そうですか ソダカネ  
C そうですか ソーデゴザイマスカ

4. 人間関係に応じた待遇表現

4-1 特定表現の待遇表現

- (35) その角を曲がって ソア カド マガッテ  
(36) とんでもない トンデモナイ

4-2 多人数場面の待遇表現

- (37) 世話役を引き受けるとき フツツカデスケドモ ヒキウケサセテ モライマスワ  
(38) 今度の旅行には参加者が少ないので、皆さん参加してほしい コンドノ リョコウ  
スルノニ ヒトガ スクナスギルケン ミチサン コゾッテ デカケマシヨヤー

4-3 位相による待遇表現

- (39) A 挨拶 B どこへ行くのか

1. お寺の住職さん

- A オハヨーゴザイマス

B ドチラエ オデカケデ ゴザイマスカ

2. 校長先生

A オハヨーゴザイマス

B ドチラエ オデカケデ ゴザイマスカ

3. 見知らぬ年配の男性

A オハヨーゴザイマス

B ドコエ イキナハーマスカネ / ドコ イカッシャーマスカネ \*「キ」の母音は [i] に近い。

4. 見知らぬ年配の女性

A オハヨーゴザイマス

B ドコエ イキナハーマスカネ / ドチラエ イキナハーマスガ

(「ドチラ」と「ドコ」を区別して使い分けてはいない。また、普通は、見知らぬ人に対しては、挨拶だけで「どちらへ行くか」と尋ねることはしない。)

\*「キ」の母音は [i] に近い。

5. 顔見知りの年上の男性

A オハヨーゴザイマス

B ドコエ イキナハーネ \*「キ」の母音は [i] に近い。

6. 顔見知りの年上の女性

A オハヨーゴザイマス

B ドコエ イキナハーネ \*「キ」の母音は [i] に近い。

7. 10歳ほど年下の見知らぬ男性

A オハヨーゴザイマス

B ドコエ イキナハーカネ \*「キ」の母音は [i] に近い。

8. 10歳ほど年下の見知らぬ女性

A オハヨーゴザイマス

B ドコエ イキナハーカネ / アンタ ドコエ イクネ / ドコエ イキナハーマスカネ \*「キ」の母音は [i] に近い。また、「ク」の母音は [ü] に近い。

9. 同級生の男性

A オハヨー

B アンタ キョーワ ドコエ イクネ \*「ク」の母音は [ü] に近い。

10. 同級生の女性

A オハヨー

B アンタ キョーワ ドコエ イクネ \*「エ」は、省略されることもある。

「キョーワ」が入る時もある。また、「ク」の母音は [ü] に近い。

11. 10歳ほど年下の顔見知りの男性

A オハヨー

B アンタ ドコエ イクネ \*「ク」の母音は [ü] に近い。

12. 10歳ほど年下の顔見知りの女性

A オハヨー

B アンタ ドコエ イクネ \*「ク」の母音は [ü] に近い。

13. 近所の中学生の男の子

A オハヨー

B アラ ボク ドコ イクネ

14. 近所の中学生の女の子

A オハヨー

B アンタ ドコ イクネ

### Ⅲ. 総括 (まとめ)

1. 発音の特徴は、「イル」が「オー」、「ネル」が「ネー」、「タベル」が「タペー」のように「ル」が脱落(長音化)すること、「キ」、「ク」の母音のほとんどが、中舌母音 [i̥]、[ü] となることである。また、「カ」が「クワ」[kwa]、「セ」が「シェ」[sje] となるときもある。
2. 尊敬表現においては、「シナサイマス」、「ネナサイマス」、「ミナサイマス」のように、命令形+「マス」の形が見られた。また、「家にいらっしゃるでしょう」、「そこに行っていらっしゃった」、「来ていらっしゃる」のような「イル」の尊敬表現として、「オーナル」、「オーナハー」、「オイデー」の形が使われていた。「来ていらっしゃる」、「していらっしゃる」では、「キトーナハー」、「シチョーナハー」、「シトーナハー」の形も使われていた。否定形は、「オーナラダッタ」、「オイデマセダッタ」、過去形は、「オーナハッタ」、「オイデタ」となる。「どこへいらっしゃいますか」の「イラッシャル」においては、「イキナハー」の形も使われていた。  
なお、雲伯方言の敬語の特徴である「ゴス」(「クダサル」、「～テクレル」、「～テクダサイ」にあたる)、「シャル(シャー)・サッシャル(サッシャー)」、「レル・ラレル」(「レル・ラレル」にあたる)に関して、今回の話者からは、「ミセテ ゴシナハッタ」、「イッテ ゴシナハイ」、「イカッシャーマスカ」などの回答が得られた。
3. 丁寧表現では、形容詞+「ございます」のとき、「サムゴザイマス」のように、ウ音便が落ち、語幹だけが残って「ございます」に続く形が見られた。
4. 身内敬語、特定表現の待遇表現についてについて特筆すべき形は見あたらなかった。
5. 今回の話者は、年齢や親疎では待遇表現を使い分けているが、男女による使い分けはほとんど行っていないようである。

(やまね ちえ 山陽学園短期大学)